

## 特別活動(小学校)

### 特別活動の基本的な性格はどうなっているのか。

特別活動は、目標が示すように、児童の望ましい集団活動を通して人間形成を図ろうとする教育活動である。このことから、特別活動の基本的な性格を次のように捉えることが大切である。

複雑で変化の激しい社会での生き方などについて体験的に学ぶ場として、望ましい集団活動や体験的な活動を通して、実際の社会で生きて働く社会性を身につけるなど、児童の人間形成を図る教育活動

特別活動  
望ましい集団活動や体験的な活動を通して

「将来の職業や生活を見通して自立的に生きるための『生きる力』の育成」

- 自分のよさや個性を生かして、多様な他者と共に、社会、自然・環境とのかかわりの中で、これらと共に生きる自分への自信をもたせること
- 基本的な生活習慣を確立すること
- 公共の精神など社会生活を送る上で必要な資質や能力など

#### 1 学校における集団活動や体験的な活動の充実

##### 【現状】

- 家庭や地域社会において社会性を身につける場が減少
- 望ましい人間関係を築く力などの社会性が身に付きにくくなっている

##### 【問題】

- 児童の対人関係が未熟なままに、協力してよりよい生活を築くことができないこと
- いじめや不登校、暴力行為など

##### 【問題行動の解消とたくましく生きる力の育成のために】

- 学校における児童の望ましい集団活動や体験的な活動を一層充実させること

#### 2 「発達課題の達成」の理解に基づいた指導

人がよりよく発達を遂げるためには、人間としてそれぞれの発達時期に達成しておくべき課題がある。

##### 児童期における発達課題の例

- ア 普通の遊びに必要な身体的技能の習得
- イ 自分の身体に対する安全な態度の形成
- ウ 友人との適切な仲間関係の成立
- エ 読み・書き・計算の基礎的な技能の発達
- オ 良心・道徳性・価値判断の尺度の発達
- カ 人格の独立性の発達
- キ 各種の社会的態度の発達

集団活動と深いかかわりをもつものが多い。

自然に達成され身に付くものではなく、教師などの意図的な働き掛けをきっかけとし、児童の自身の主体的な生活経験の積み重ねにより身に付くもの

### 3 学校生活における集団活動の発達的な特質を踏まえた指導

特別活動は、集団活動を通して人間形成を図る教育活動であることから、発達課題について理解するとともに、幼児期の発達や指導の状況を理解し、次のような児童期の集団活動の発達的な特質を十分に踏まえて指導する必要がある。

#### 【低 学 年】

低学年の発達的な特質

- |        |   |
|--------|---|
| 入学当初   | → 幼児期の自己中心性がかなり残っており、児童相互の関係は、個々の児童の単なる集合の段階<br>→ 教師と児童との関係が中心で児童相互の人間関係は少ない。<br>→ 小1プロブレムの問題<br>学校生活や集団生活への不適応や授業の成立が困難な状況など               |
| 第1学年後半 | → 教師を中心とする学級集団への所属感、一体感が現れ始める。<br>→ 小グループの活動ができるようになるが、友人関係は流動的で結び付きも弱く、集団としてのまとまりは欠けている。   |
| 第2学年   | → 他人の立場を認めたり、理解したりしようとする態度や、よりよい学級生活を築こうとする自主性が次第に高まる。<br>→ 小集団での協同的な活動ができるようになってくる。<br>→ 役割を分担したり、決まりの大切さを認識したりしての活動<br>→ 学校に対する所属感が少しずつ深化 |

関連を図りながら・・・集団生活に適応させる

就学前の教育（例：幼稚園教育要領「人間関係」の領域などの幼児教育）

- 特に学級や学校における集会活動や係活動を通してみんなと一緒に活動する楽しさを体感させること
- 学級会において友達の意見をしっかりと聞くことの大切さを理解して話し合いができるようにすること
- 異年齢集団や学級内のグループでの活動を協力して行うこと

この時期の特別活動では、次のことを通して、個々の児童が望ましい人間関係を築く態度の基礎を身に付ける。

低学年においては、これらのことに配慮し、望ましい集団活動や体験的な活動を通して、児童が仲よく助け合い学級生活を楽しくすることができるようにするとともに、進んで日常生活や学習に取り組むことができるようにする。

#### 【中 学 年】

中学年の発達的な特質

- |      |  |
|------|--|
| 第3学年 | → 集団の中の仲間としての結び付きや集団としての閉鎖性が増大し、小集団による活動が盛んになる。<br>→ 集団感情や集団意識が強く育ってきて、仲間意識が高まる。<br>→ 集団同士の対立や集団への付和雷同的な行動が見られるようになり、学級全体としてのまとまりが育ちにくい時期<br>→ 集団での活動目標についてある程度共通に理解し活動できるが、個人的な興味・関心や要求に動かされることが多く、集団に所属する成員の間に相互の依存関係は見られない。 |
| 第4学年 | → 集団目標の達成に主体的に関わったり、共同の活動に取り組んだりして、リーダー的な児童を中心に、ある程度の計画的な活動ができるようになり、自主性も増してくる。<br>→ 学校生活全般に興味・関心を広げ、自発的に活動しようとする意欲が強くなる。<br>→ 男女の活動の違いも見られるようになり、男女別の小集団もつくられるようになる。  |

特質を踏まえ、低学年の経験を生かし

- 児童の集団活動に対する強い興味・関心の出現、自発的な活動への要求の高まりなどを積極的に生かし、自分の行動や集団としての活動の成果や反省を踏まえて、特に楽しい学級生活づくりのための係活動などの共同の活動の充実を図ったり、多様な集団に所属して望ましい人間関係を築く態度を形成する活動を充実させる必要がある。
- 生活や遊びのきまりをつくって守る活動やよりよい生活を築くために集団としての意見をまとめるための方法などを理解して話し合い活動ができるようにしたり、集団の秩序や規範、集団活動の方法などを自分たちで作上げたり、そのための方法を身につけたりできるように指導することが大切である。
- 高学年に向けて、学年の集団など他の学級と一緒に活動に取り組む機会を適切に設けるなどして、より大きな集団においても個人と集団が調和的に発達できるようにすることが大切である。

中学年においては、これらのことに配慮し、望ましい集団活動や体験的な活動を通して、児童が協力し合って楽しい学級生活がつかれるようにするとともに、日常生活や学習に意欲的に取り組めるように指導する。

## 【高 学 年】

### 高学年の発達的な特質

- 第5学年**
  - 自分たちで決めた集団の活動目標をできるだけ大切に、常に実践活動を振り返り、改善しながらこれを達成しようとする感情や意識が強くなる。
  - 学級全体としてもまとまった活動ができるようになる。
  - 友達の長所や短所なども客観的にとらえられるようになるとともに、目標を実現するために、互いに信頼し支え合って活動することを強く求めるようになる。
  - 学校生活の改善や向上にも目を向け、学校全体の集団をまとめようとする意識や活動も見られ、役割や責任などの自覚も深まる。
  - 価値観は、ときに理想主義的、一面的で独断的な傾向になりやすく、相手に批判的、自分の価値判断に固執しがちになる。
  - 自分に自信が持てなくなったり、友人への不信感をもったり、傷ついたりして悩みや不安を感じるようになる。
  - 男女の心身の成長の差が大きい中で、共に生活している。
- 第6学年**
  - 最高学年としてリーダーシップを発揮しようとするなどの意識や態度も育ち、役割や責任を自覚して活動するようになる。
  - 思春期特有の不安定な感情がより大きくなり、人間関係に悩んだり、先頭に立って活動することに消極的になったり、中学生活への不安を抱いたりする児童も少なくない。

### 特質を踏まえ、中学年までの経験を生かし

- 高学年としての役割や責任を果たし、最高学年としてリーダーシップを発揮したりする活動を多様に設定する。
- 多様な他者を認めることの大切さを実感できるようにしたり、友達の大切さを経験を通して理解できるようにしたりする。
- 下学年の児童の面倒をみたり、より高い目標をもって様々な役割を担う体験を通して、困難を越えて目標を達成できるようにしたり、このことについて互いが認め合えるようにしたりして、自分への自信が持てるようにする。
- 現在及び将来の自己の生き方を取り上げたり、中学校の学級活動等の指導との関連を図った指導計画を作成したりするなど、中1ギャップに関わる課題に配慮し、中学校への指導につなぐことができるような教育活動を重視する必要がある。

高学年においては、これらのことに配慮し、望ましい集団活動や体験的な活動を通して、男女が協力するなど、信頼し支え合って楽しく豊かな学級や学校生活がつかれるようにするとともに、日常生活や学習に自主的に取り組むことができるように指導する。